



切り絵『阿』獅子神
比企善彦作

うぶすな

茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所
茨木市元町4-3
072(622)2346
[http://www.
ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

「狛犬」

上掲の「狛犬」は大正十三年、皇太子裕仁殿下（後の昭和天皇）と良子様（後の香淳皇后）のご成婚を祝って奉納されたものです。神社正面の大鳥居近くに参道をはさんで設置され、当神社で最も大きい「狛犬」です。

狛犬は古代大陸からもたらされたもので、中国では悪魔祓い、邪悪なものを追い払うという信仰があったことから、当初我が国では貴人を守護するために御座の傍や寝所に置かれました。それがいつしか邪悪なものを防ぎ清浄を保つ目的で社殿の御神座近くに置かれるようになりました。

この頃までの狛犬は木製が主であり、その多くが仏師の手によることから寺院の仁王像にならって一方が口を開けた阿（あ）形に、一方が口を閉じた吽（うん）形一対の狛犬が多く造られました。その後、社殿を出て社殿及び広く神域の守護を目的とするようになり、それまでの木造から石造や金属造が多くなっていききました。神社における石造狛犬の普及は、日光東照宮の家康の墓を守るため一対の狛犬が大名によって奉納設置されたことに始まると言われていました。したがって、全国各地にみられる石造狛犬は、そのほとんどが江戸期に入ってから氏子や崇敬者の奉納によるものです。

上掲の狛犬、まさに参拝者の善男善女を暖かく見守っているとともに邪悪な心を厳しく威嚇しているようです。

恵美須神社の屋根瓦の「桃」

近年、洋風の建物が多くなり、特に市街地では瓦葺屋根の家が少なくなりましたが、住居の屋根瓦にも平穩な暮らしへの切なる願いを感じる事ができます。屋根瓦で一般的に多く目にするのが「巴」をあしらった瓦です。これは「巴」の形が水滴に似ていることから、その建物を火の災いから守りたいという願いが込められているのです。

我が国には古代より、口から発した言葉には霊力があり、不思議な作用をもたらすという言霊信仰があります。中には屋根の妻に「水」と書かれた家もありますが、巴瓦と同様この家には水が豊富にあり「火の神」が来ても無駄ですよという言霊信仰から派生したものです。また「鬼瓦」も多く見受けられます。鬼は邪悪で災いをもたらしますが、一方で神に服従した鬼は神を守護すると信じられ、家の神（荒神）を守る鬼として置かれています。

さて、境内社の恵美須神社の屋根瓦の先端には「桃」の形をあしらった瓦が置かれています。また恵美須神社御本殿の虹梁にも、「桃」の彫刻が施されてもいます。桃には古代より邪気を祓い悪霊・悪鬼を退けると

の信仰があります。「古事記」の黄泉の国神話で黄泉醜女（よもつしこめ）等に追われた伊弉諾尊が黄泉比良坂

（あの世とこの世の境）で桃の実を投げつけて退散させ、その功績で桃に「意富加牟豆美命（おおかむづみのみこと）」という神名が与えられたと記されています。また、近年「牧野古墳」や「纏向遺跡」などから大量の桃の核が発見され、何らかの祭祀に使われたと推測されています。



恵美須神社「桃」と三巴の軒瓦

恵美須神社縁起によれば、恵美須祭は元和三年（一六一七）から始まり、当社境内に始めて社殿が建てられたのは江戸中期頃と伝えています。以後、幾度となく修復・建替えが繰り返されましたが「桃瓦」は同じ場所に据えられてきたといわれます。

「桃瓦」は当時のこの地の商人達への「桃」に対する知識と信仰の一端を今に教えてくれています。

皇太神社・多賀神社例祭

去る三月十七日に皇太神社（旧上中条村氏神）、四月二十二日には多賀神社（旧下中条村氏神）の例祭が多数の旧氏子の皆様のご参列の下、執り行われました。この二村は明治二十二年の町村合併により茨木村に合併され、併せて明治政府の神社合祀令により明治四十一年に現在地に遷されました。両旧村ともに神社保存会を結成し、旧氏神様の護持に尽力していただいています。



多賀神社例祭



皇太神社例祭

人形奉焼祭

四月八日、恒例の人形奉焼祭が斎行されました。氏子崇敬者より持ち寄せられた多くの人形を祈禱の上奉焼いたしました。

この神事は毎年四月八日に斎行いたしますが、始まりは三十五年前、地元で人形教室を開いておられた日野緋成（ひせい）先生が、生徒の技能の上達を願うとともに、教材とした人形や制作した人形達の供養のため奉焼祭を当神社で斎行したことに始まります。



昭和六十一年の奉焼祭

その後、毎年この日に奉焼祭を続けてまいりました。昔から人形には魂が宿ると言われ、古びてもなかなか捨てにくく処分困っている方が多くおられることから人形教室を開



今年も去る四月十八日に、会員四十名出席の下、祈年祭(春祭)に合わせて恒例の奉賛会厄除安全祈願祭が斎行されました。その後会場を参集殿に移して総会が行われました。総会では神宮並びに皇居遙拝、国家斉唱、敬神生活の綱領唱和、木内会長挨拶、宮司挨拶と続き、審議では会計決算、予算・事業計画が承認されました。

奉賛会だより 奉仕会総会報告

じられた後も、毎年この日に奉焼祭を続けてまいりました。年々人形の数も参列される方も増え、今年は市外も含め二七一名よりお預かりして斎行しました。

総会に続いて茨木市千提寺で伝統野菜「三島うど」を生産されておられる中井優紀様にお越しいただき、「うど」についてご講演していただきました。茨木市内での「うど」生産は江戸時代初期より始まったといわれ、明治四十年の記録では市内の旧七ヶ村で栽培され、大阪府の紹介文書でも「日本一の三島うど」と紹介されるなど特産品としての評価が高かったことが伺えます。戦後、高速道路の建設や工場建設等開発の波によって「うど」の作付農家は大幅に減少していききました。

こうした中でも採算を度外視した株の保存が続けられましたが、今では千提寺の一軒のみとなってしまったのです。講演では「うど」は手間のかかる野菜で、特に真冬にはうど小屋にワラと干し草を七層に敷き詰めて発酵する必要がある。寒い一、二月の夜中にもワラの中に手を差し入れて二十度を保ち続け五十日間をかけてやつのことで真っ白のうどが芽を出してくれる。他の地域ではホルモン剤を使用し、確実に成育させているが、「三島うど」は一切ホルモン剤は使用しない。そのため太さや長さにはらつきがでて、商品にするのは難しい」と話されました。かつては茨木市を代表する特産物



三島うど



のひとつであった「うど」。昔ながらの生産方法を守りつつセンサーによる温度管理等、新しい取り組みにチャレンジされている若い生産者を応援したくなる講演でした。

茨木音楽祭

端午の節供の五月五日、今年も恒例となった茨木音楽祭が開催されました。二十四節気の一つでもある「立夏」の当日は、暦とおり初夏を感じ爽やかな天候となりました。「音楽を通じて、まちを元気にしよう」という熱い志のもとに集った有志により始められた音楽祭、通称「いばおん」も市民参加型の音楽イベントとしてすっかり定着し、今年で第九回目を迎えました。毎年市内各所で展開される様々なジャンルの音楽コンサートを中心に、嗜好を凝らした様々な催しを楽しみに茨木市内外から大勢の人々が訪れています。



今年約160組の演奏者が市内全二十会場で終日熱演を繰り広げ、

その一つでもある当社境内も「茨木神社ステージ」として、演奏の他、ライブイベントや地場の野菜や卵を使ったオーガニック食堂などが行われました。また当社の休憩所の前では参加アーティスト達が境内の雰囲気と調和した心地よい音楽を奏で、訪れた多くの参加者を楽しませていました。

「日本を美しくする会」
清掃奉仕

去る三月十八日、NPO法人「日本を美しくする会」の方々により清掃奉仕をしていただきました。この「日本を美しくする会」は清掃という活動を通じて環境美化に努める団体で、鍵山秀三郎氏の提唱で平成五年に発足しました。

「ひとつ拾えばひとつだけきれいになる」鍵山氏の精神に共感する方々は全国に拡がり現在では十万人以上の参加者が全国津々浦々で清掃活動を展開されております。

昨年、会員のお一人に当社のトイレ清掃をご奉仕頂いたことがきっかけで、今回の清掃奉仕に至りました。会員三十四名の方々が半日かけて、当神社内全てのトイレをとんでも丁寧に清掃していただきました。



清掃の様子

神前結婚式

人生儀礼の中でも特に大きな節目となるのが結婚です。その起源は伊弉諾尊・伊弉冉尊二柱の神様が夫婦のちぎりを交わされ、八百万の神々をお生みになられた神代の故事によります。



神前における結婚式は大正天皇様が宮中の賢所神前で斎行された「結婚の儀」が現在行われている神前結婚式のはじめとされています。当社でも儀式殿において神前結婚を斎行していますが、近年「結婚式は生まれ育った氏神様で」という氏子の皆様のご依頼を多く戴いております。

鎮守の森に漂う清らかな空気の中、厳肅な雰囲気の中で誓いを交わし、氏神様に新しい生活の平安と幸せを祈念する神前結婚式は日本人にふさわしい儀式といえます。



これからの行事予定

- ◆ 大祓神事
 - 六月三十日 午後二時斎行
 - 人形祓・茅の輪くぐり
 - 厄除神楽
 - 茅の輪守・粽授与
- ◆ 夏祭り
 - 七月十三日・宵宮
 - 十四日・本宮
 - 午前十時斎行
 - 御輿渡御 神楽奉納
- ◆ 末社琴平神社例祭
 - 九月十日
- ◆ 例大祭（秋祭）
 - 十月十日 午前十時斎行
- ◆ 七五三詣
 - 十一月中随時
 - 祈禱者にお守り
 - おみやげ授与
- ◆ 末社恵美須神社例祭
 - 十一月二十日
- ◆ 天石門別神社記念祭
 - 十一月二十二日
- ◆ 新嘗祭
 - 十一月二十三日
- ◆ 大祓・除夜祭
 - 十二月三十一日